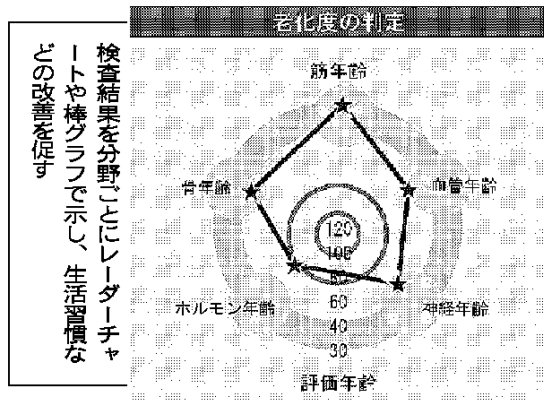


## 健康意識の高まりに的

# 抗加齢ドック本格始動

臨床検査受託大手のファルコバイオシステムズと、バイオベンチャーのバイオメーカーサイエンス（大阪市、内田景博社長、BMS）は、「アンチエイジング（抗加齢）ドック」を本格的に始める。様々な検査を通して病気の可能性を判定し、予防に役立てる。四月から始まる「特定健診・特定保健指導」で義務化されない検査もメニューに盛り込み、健康意識の高まりに対応する。



## ファルコバイオとVB 50医療機関で検査

同検査は健康保険が適用されない。価格は内容

に応じて三万円、七万円、十万円の三コースを設けた。検査内容は血液や尿などの検体検査や機器を使った体力測定など数十項目ある。提携医療機関は日本抗加齢医学会の認定を受けた、専門知識が確かな指導ができる医師がいる機関に限る。検査結果を基に、体内

年齢や皮膚年齢、酸化ストレス度、メタボリック（内臓脂肪）症候群危険度、運動能力の五項目でリーダーチャートを作成する。さらに五項目のバランスを総合的に判定し、生活習慣病などの発症危険性を推定。結果に応じて、医師が食事や生活習慣の改善方法などを指導する。また、従来の健康診断指す方針だ。アンチエイジングドックは、日本抗加齢医学会の理事長も務める京都府立医科大学の吉川敏一教授らが確立した手法。BMSが事業化し、二〇〇六年夏以降、東京や中部、近畿の大都市圏の医療機関で試験的に展開してきた。

両社と提携する東京、大阪、名古屋など約五十カ所の医療機関で検査を行う。今後、臨床検査のネットワークを生かし、受託で医療機関との関係が深いファルコバイオの提携する医療機関を拡大していく。